

「木と共に、巡る未来」の実現に向けて

株式会社大林組



協定締結の検討経緯

大林組は多くの伝統木造建築の改修等の実績に加え、2010年代初めから現代工法による中大規模木造建築の設計施工実績を積み、2017年には「森とともに生きる木造循環型都市『LOOP50』」*建設構想を発表しています。



LOOP50 ※「LOOP50」とは、持続可能性と魅力ある暮らしを両立する中山間地域の街を構想した木造循環型都市。

また、2022年には日本初の高層純木造耐火建築物として『Port Plus』（神奈川県横浜市）を竣工させました。竣工に当たって約2,000㎡の木材を使用する経験の中で、サプライチェーンを活性化させる必要性を感じ、川上では苗木の人工光育成技術の開発と実践、川中では木材加工の株式会社内外テクノス（埼玉県ふじみ野市）との協業に加え、CLTメーカーの株式会社サイプレス・スナダヤ（愛媛県西条市）のグループ化、川下の先ではサーマルリサイクル（バイオマス発電）に取り組ん

でいます。この活動をCircular Timber Constructionと名付け、木材のサプライチェーンへの貢献を通じて木材利用促進を図っています。その後、建築物木材利用促進協定の制度を知り、当社の活動と合致することから、2023年2月に農林水産省、経済産業省、環境省と、当社グループ3社の合同で協定を締結するに至りました。



Port Plus



協定に基づく構想の概要

協定では、「中高層木造・木質化建築等の促進を通じて、森林共生都市の実現及び循環型森林利用の推進」を掲げ、次の8つの取組を行います。





大阪・関西万博の大屋根リング 提供：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会、株式会社大林組、株式会社仲和

- ① 建設事業者として事業主に木造・木質化に関する情報提供
- ② 建築事業主としての木材の積極的な活用
- ③ 森林所有者として「伐って・使って・植えて・育てる」森林循環利用
- ④ 耐火性・耐久性・再利用などの技術開発、人工光苗木生産技術の開発
- ⑤ LOOP50の理念に基づきまじづく・地域創生



岩谷産業神戸研修所 提供：ヴィブラフォト 浅田美浩



nonowa国立SOUTH 撮影者：Nacasa&Partners Inc.

- ⑥ 施工時における合法木材の利用
- ⑦ 自社設計物件におけるZEBの推進
- ⑧ 再生可能エネルギーの適切な組み合わせ利用

協定に基づく取組

今回の協定締結以降、2024年末までの実績で、見学者数はPort Plusだけで2,086名、講演会を14回、展示会を7回行いました。

耐火の認定を14件取得し、実物件に活かす予定は、LOOP50については、理念に賛同いただいている自治体と協議を継続しています。

また、森林循環利用に向けた再造林に資するため開発したハイブリッド型人工光苗木生産システムのパイロットプラントを鳥取県日南町に設置し、カラマツの苗木生産を開始しています。2024年



(仮称)天神1-7計画

今後の抱負

国内では「(仮称)天神1-7計画」(福岡県福岡市)に着工し、設計者とともに外部で使用されるCLTの耐久性を高める工夫の検討を行っています。海外では、木造ハイブリッド構造ビル(高さ182m)の「アトリアン・セントラル」(オーストラリアシドニー)の工事に着手しており、

11月には290本を初出荷し、当社職員も参画して苗木の植林を行いました。この活動や当社グループ所有林における循環型の森林施業等が評価され、「森林×ACCTチャレンジ2024」の優秀賞(林野庁長官賞)を受賞しています。

協定締結後に竣工した木造物件は計7件で、木材を計2,705m³使用しています。直近で竣工したものは「nonowa国立SOUTH」(東京都国立市)、「岩谷産業神戸研修所」(兵庫県神戸市)などがあり、大阪・関西万博の大屋根リングも間もなくお披露目されます。

2026年に竣工する予定です。これらの物件を通じて新たな技術開発に挑戦し、木材利用促進に貢献することで、森林共生都市の実現および循環型森林利用を推進していきたいと考えています。



アトリアン・セントラル

協定制度への期待

都市の木造化を推進していく上での課題はコストですが、その背景にあるサプライチェーンと規制の合理化は、民間の企業に解決できることではありません。個々の志ある企業の活動を束ね、行政からの情報発信や支援、調整によってさらに前進することを願っています。当社も引き続き協定に基づき取組を行い、木材利用促進に寄与してまいります。

